

2019年5月9日  
沖電気工業株式会社

## 2019年3月期決算発表 社長スピーチ

中期経営計画の最終年度を迎えるにあたり、足もとの事業環境と今後の方向性について、私の考えをお話します。

昨年の決算説明会で、私は「OKIを持続的な成長軌道に回帰させる。」と申し上げましたが、結果として、前期の収益が予想を上回って着地したことは、素直に良い事と受け止めております。それ以前の決算においては、投資家の皆様のご期待に副うことができませんでしたが、前期は目標達成に向けた施策の実行を、経営と社員が一丸となって取り組んだ成果が出たと手応えを感じています。

その一方で、成長軌道に戻ったと言い切るには、まだ乗り越えるべき課題が残されているのも事実です。ペーパーレス、キャッシュレスという2つのレスや、デジタルトランスフォーメーションという環境変化、それがもたらす競争激化にどう対応できるのかが問われていると思います。

OKIは、モノづくりを基盤とした技術の会社です。これまで独自開発した特長ある端末とネットワークの技術を合わせることで、お客様の課題を解決してきました。100年以上前からエッジデバイスを作り、ネットワークに繋いできたIoT企業と言えます。したがってIoT社会の到来は、OKIにとって多くのビジネスチャンスをもたらすものだと考えています。

OKIにはネットワークの技術があり、センシングの技術、データ処理・分析・業務アプリケーション、そして信頼性の高い端末を製造する技術力があります。これだけの技術をあわせ持っている企業はそうはありません。これが大きな強みです。

その強みを背景に、エッジ領域に特化して最適な端末を自由に選択してネットワークで繋ぎ、システムを構築してきた歴史があります。そのことで得た顧客の信頼と業務に関する知見は、大きな財産です。パートナーとして共創するお客様も、どんどん増えてきています。

本格的な5G時代の到来が近づくにつれ、デジタル化はさらに加速すると思います。つながる機器が飛躍的に拡大し、データ量は爆発的に増えていきます。そうなれば通信インフラの増強も必要となります。また、効率的で快適な通信環境を維持していくことと、端末でのより高速でリアルタイムの処理も必要とされ、エッジ・コンピューティン

グはより高度化が要求されてきます。

これまではスマートフォンやタブレット端末がコンシューマー向けのIoT端末として、飛躍的に普及してきました。しかし今後は、スマートシティやスマート工場向けといった産業用途の端末や、自動車向け、医療向けの端末が急速に拡大していくと予想されます。このような領域は、社会のインフラを支えるビジネスを行ってきたOKIが得意なエリアです。安心・安全が求められるミッションクリティカルな世界に、目指すべき事業領域があります。

OKIはこの領域で求められる、より高度で信頼性の高いインターフェイスを持った端末を投入します。その開発のため、今後リソースを重点配分していきます。

加えて、社会的な課題の解決があります。医療や流通をはじめとする特に人手不足が深刻化する現場に、プリンターやメカトロにおける技術やリソースを活用し、その負荷を軽減するような自動化機器の開発などに注力します。

メカトロシステム商品の大半はATMと思われる方もいますが、紙幣処理はOKIの自動化技術の一部であり、そこに限定されたものではありません。もちろんATMは主力商品の一つですが、今後より大きな成長の可能性を持つのは複合的な機能を持つ省人化機器であり、そこに注力します。

社会インフラを支え、社会的課題を解決していく、以上の施策を実行するには、リソースの最適化が必要です。将来の事業再編も視野に、必要なリソースについてはプロダクトアウト、ハードウェア単体ビジネスの現場から、セグメントを跨いで思い切った再配置を実施します。

最後に、リカーリングビジネスを拡大します。OKIの端末は様々な市場で、数万点にのぼってインストールされ稼働しています。こうした端末群をベースにしたリカーリングビジネスもスタートしており、年々拡大を続けています。同ビジネスの拡大は、長期間に渡って底堅くOKIの業績を支えていってくれると期待しています。

新しい事業体制については1年をかけて構築し、次期中期経営計画の発表時に詳細をご説明します。

以上、今後とも引き続き変わらぬご支援を賜りたいと存じます。